

1. 平均年齢は64.6歳、全例男性であった。
2. 占居部位は Im : 2, Ei : 2, EaC : 1 であった。
3. sm 以深で全例発見されていた。
4. 上皮化発育が主体で非癌上皮や扁平上皮内癌に覆われていた。
5. O-IIc の合併を 3 例に認め、大部分は扁平上皮癌であった。
6. 生検にて正診し得たのは 5 例中 1 例のみであった。
7. 全例他の癌成分を有し扁平上皮癌 5 例、腺様囊胞癌 1 例、腺癌 1 例の併存を認めた。
8. 5 年生存する症例も認められ、決して予後不良とはいえないかった。

20. 特殊型食道表在癌 3 例の検討

富山医科大学第 2 外科、同 第 1 病理*

井原 祐治、坂本 隆、斎藤 光和
野本 一博、榎原 年宏、田内 克典
清水 哲朗、藤巻 雅夫、松井 一裕*
北川 正信*

当科において特殊型と診断された表在型食道癌は 3 例であった。

- 1) 63歳、男性。Im の O-Isep 型で、Blunt dissection を施行。組織学的には、深達度 sm, n(-) の小細胞癌であった。術後、2 年 7 か月後、再発死亡した。
- 2) 71歳、男性。Im の O-Ipl 型で、胸部食道切除術を施行。組織学的には、深達度 sm の腺様囊胞癌であった。尚、扁平上皮癌を併存していた。術後、8 年 10 か月、下咽頭癌にて死亡した。
- 3) 59歳、男性。ImEi の O-Ip+IIc 型で、胸部食道切除術を施行。組織学的には、深達度 sm, n₃(+) の so-called carcinosarcoma であった。術後、1 年 6 か月で原病死した。以上 3 例につき、報告した。

21. 特殊型食道表在癌の検討—癌肉腫の 1 例

大阪大学第 2 外科

宇都宮健弘、塙崎 均、井上 雅智
土岐祐一郎、五福 淳二、平尾 素宏
木村 豊、山本 真、川西 賢秀
福地 成晃、門田 守人

当科での過去 10 年間の食道表在癌症例は 90 例で、このうち特殊型と診断されたのは未分化癌、癌肉腫各 1 例の 2 症例であった。癌肉腫の 1 例について報告する。症例は 67 歳男性、胸部食道の 6.6 × 2.5 cm の隆起と一緒に連続して 3 cm 大のヨード不染帯を認め O-Ip+IIa と診断された。組織診にて不染帯部分に扁平上皮癌が、

隆起部分に紡錘形細胞肉腫がみられ、両者間に移行像を認め、いわゆる癌肉腫と診断された。癌肉腫の症例数は比較的まれであり、病理組織学的な特徴やバリエーションなどについてもとらえにくい部分も多い。本症例について、若干の考察を加えて報告する。

22. 食道表在型の“いわゆる癌肉腫”の 1 例

秋田大学第 2 外科¹⁾、同 病理²⁾

高橋 喜徳¹⁾ 北村 道彦¹⁾ 泉 啓一¹⁾
鈴木 裕之¹⁾ 南谷 佳弘¹⁾ 斎藤礼次郎¹⁾
小川 純一¹⁾ 提嶋 真人²⁾

症例は 50 歳男性。1996 年 9 月検診目的の上部消化管内視鏡にて門歯列より、①33~36 cm : O-Ip+IIb, ②40~43 cm : IIc+IIa, 病変認められ、生検にて①②とも SCC と診断された。10 月 30 日手術施行。術後の組織的検索では、① SCC が高度に肉腫様に変化したもので、いわゆる癌肉腫、m₃~sm₁ (標本を扱う際に腫瘍が剥離し詳細不明), ly₁, v₀, n₀. ② SCC, m₂, ly₀, v₀, n₀. と診断された。術前には指摘されていなかった多発癌が存在し ow(+) であったため、術後照射を行い 12 月 27 日退院した。現在再発を認めず外来にて経過観察中である。

23. 癌肉腫の組織像を呈した食道表在癌の 2 例

獨協医科大学第 2 外科¹⁾、福田記念病院²⁾

大井田宗継、門馬 公経、青木 洋
伊藤 允、宇賀神一名、吉田 修郎
伊東 祐一、中野 智文、宮田 秀夫
門脇 淳、小暮 洋暉¹⁾ 小原 靖尋²⁾

症例 1 : 56 歳、男性。術前診断 : Im, O-I+O-IIc 型扁平上皮癌。化学放射線療法後に食道切除術施行。切除標本 : 3.5 × 2.5 × 1.5 cm。病理組織診断 : 低分化扁平上皮癌 + 線維肉腫。腫瘍表層の扁平上皮癌の部分は脱落していたが、腫瘍を形成している部分は線維肉腫様の所見で残存していた。st0 (sm₃, n₀, m₀, pl₀), ly₁, v₁。術後 2 年 6 か月で癌死した。

症例 2 : 64 歳、男性。術前診断 : Iu, O-I 型食道表在癌。切除標本 : 4.0 × 2.2 × 1.6 cm。病理組織診断 : 低分化扁平上皮癌 + 平滑筋肉腫。stIV (sm₃, n₄, m₀, pl₀), ly₃, v₂。術後化学放射線療法を施行したが術後 6 か月でリンパ節、皮膚に再発し、術後 1 年で癌死した。

以上、表在型食道癌肉腫の 2 例を呈示した。

24. O-IIc から O-I+IIc へ形態の変化を示した食道癌肉腫（疑）の 1 例

名古屋市立大学第 2 外科

服部 浩次、桑原 義之、川村 弘之